



## 新年度のご挨拶

全国市町村国際文化研修所

学長 荻 澤 滋

令和7年度が始まりました。市町村の皆様におかれては、新たな職場で、あるいは新しいメンバーを迎え、気持ちも新たに張り切っておられることと思います。

昨年度も、全国市町村国際文化研修所（JIAM）の研修事業を活用いただき、ありがとうございました。102本の研修プログラムを企画・実施し、対面・オンラインあわせて約6,000人の方々に参加いただきました。忙しい業務の合間を縫ってJIAMにお越しいただいた皆様に感謝申し上げるとともに、受講者を快く送り出していただいた職場の方々に敬意を表します。

研修分野別にみると、税財政など定番ものだけでなく、DX推進リーダー養成、窓口業務改革、デザイン思考やナッジの活用、災害対応といった分野にも多くの参加がありました。新たなニーズ、喫緊の課題に果敢に挑戦しようという市町村職員が、全国には沢山おられるのだと心強く受け止めています。

JIAMの研修は、講師が唯一の正解を教えるものではありません。全国からの受講者が持ち寄るのは、正解のない課題、悩みだからです。そうした課題について、第一線の研究者や省庁担当者、先進的な取組団体、そして何よりも受講者相互が情報を共有し、議論をしながら考えを深めていくことに特長があります。研修終了後には「状況に応じた様々な方策、自治体毎の考え方の違いを知り、思考の幅が広がった」との感想をいただいています。

また、「同じ業務を担当する全国の担当者との意見交換で有意義だった」といった評価もあります。職場に戻られた後、研修成果を実践に活かす場面では、悩みをともにした受講者仲間との絆、人的ネットワークが大いに役立っているようです。

若年人口の減少、人材流動化が進む中、どこの市町村も必要な職員の確保に苦勞されています。「人繰りが厳しく、職場外研修への派遣は難しい」との声もお聞きます。こうした声を踏まえ、オンラインでの講義提供やカリキュラムの効率化を進めつつ、対面でしかできない本音の議論、情報交換、ネットワークづくりなど集合研修の価値を高める努力をさらに進めてまいります。

地域の発展には、市町村職員一人ひとりの成長・活躍が不可欠です。研修事業を通じて、そのお手伝いができるよう努めてまいりますので、本年度もJIAMをどうぞよろしくお願いいたします。